

野鳥の密猟・違法な飼育・販売の根絶輸入禁止に関する活動 野鳥誌掲載記事
2000年分

<活動>

野鳥の輸入禁止を求める活動の応援、ありがとうございます！

(No.637 2000年12月号 p.38)

<活動>

12月の密猟問題シンポジウムに向けて、準備が進んでいます。

(No.636 2000年11月号 p.42)

<活動>

・野の鳥は野に・野鳥売買の根絶をめざして
実態調査へのご協力、ありがとうございました

(No.635 2000年9/10月号 p.46)

<活動>

野鳥販売の実態が明らかに！ 調査へのご協力、ありがとうございました。

(No.634 2000年8月号 p.47)

<活動>

野鳥販売実態調査、中間報告 続々報告が寄せられています

(No.633 2000年7月号 p.36)

<活動>

カスミ網密猟に実刑判決

(No.632 2000年6月号 p.38)

<活動>

バードウィーク全国一斉野鳥販売調査 ご協力をお願いします！

(No.631 2000年5月号 p.41)

<活動>

バードウィーク全国一斉野鳥販売調査にご協力を！

(No.630 2000年4月号 p.37)

<活動>

第7回 密猟問題シンポジウム開催

(No.628 2000年2月号 p.36)

● <活動>

野鳥の輸入禁止を求める活動の応援、ありがとうございます！

(No.637 2000年12月号 p38)

本紙9/10月号で募金のお願いをしたところ、10月16日までに96名の方々から、合計383,111円のご寄付をいただきました。熱いご支援をありがとうございます。ご寄付は野鳥の輸入・販売禁止を求める活動のために、大切に使用させていただきます。今後とも、皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

● <活動>

12月の密猟問題シンポジウムに向けて、準備が進んでいます。

(No.636 2000年11月号 p42)

9月3日、鳥取県米子市で、全国野鳥密猟対策連絡会（以下：密対連）の実行委員会が開かれました。密対連の実行委員9名、鳥取支部の幹事11名、自然保護センターの小林副所長と坪本が出席し、「バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査」など最近の活動報告や、「第8回野鳥密猟問題シンポジウム」のプログラムの検討を行いました。シンポジウムは12月9、10日、鳥取県境港市で開催されます（主催：密対連・本会、主管：鳥取県支部）。自然保護センター古南幸弘副所長の基調講演、野鳥販売実態調査の結果報告、密猟問題に関する各地の事例報告、日本産と中国産の野鳥の識別講座などが行われますので、ぜひご参加ください。（自然保護センター）

● <活動>

野の鳥は野に・野鳥売買の根絶をめぐり
実態調査へのご協力、ありがとうございました

(No.635 2000年9/10月号 p46)

5月号で調査用紙をお送りした「バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査2000」には、179名もの方々が調査報告を送ってくださり、全国34都道府県、218店の野鳥の販売店についての情報を得ることができました。ご協力、誠にありがとうございました。

調査結果によると、報告された218店舗のうち203店舗で、計3,688羽の野鳥が販売されており、報告された全羽数のうち約68%は日本産と同じ種類の野鳥でした。

今回の調査によって、国内の野鳥販売の実態が改めてデータとして示されました。「野の鳥は野に」を創立以来の理念として掲げる本会としては、多数の野鳥がカゴに入れられ、売られている現状を容認することはできません。調査結果をもとに、野鳥の輸入・販売禁止に向けて活動を進めます。

調査結果の概略は今月号のパンフレットでご報告していますので、あわせてご覧ください。またパンフレットには、今後、野鳥の輸出入に関する実態把握や要望活動、第8回野鳥密猟問題シンポジウムの開催など、野鳥販売問題に取り組むための募金用紙が付いています。皆さまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。(坪本なおみ/自然保護センター)

● <活動>

野鳥販売の実態が明らかに！ 調査へのご協力、ありがとうございました。

(No.634 2000年8月号 p47)

6月26日現在、「バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査2000」への調査報告は、本会事務局に届けられた分が、33都道府県から、208件にもなりました。

販売されているという報告があった鳥は全部で237種類で、このうち約34%の81種が日本にも生息する野鳥（主に中国などで捕獲され、輸入されたもの。以下同）です。個体数では、日本にも生息する野鳥が2,104羽、外国の鳥が1,032羽で、合計3,136羽が販売されているという報告がありました。特にメジロは645羽と際だって多く、これに続くホオジロ、オオルリ、ヤマガラを加えると1,112羽で、日本にも生息する野鳥の全報告数（羽数）の半分以上がこの4種であることが分かりました。

皆さまのご協力、本当にありがとうございました。今回の調査結果の詳細は、6月末の提出締め切り後に全国野鳥密猟対策連絡会のとりまとめ分と合わせ、改めてご報告します。また、この結果をもとに、今後、野鳥輸入の禁止と違法飼養の根絶を目指して、国内外の政府等への働きかけを検討する予定です。（坪本/自然保護センター）

10件以上の報告があった日本にも生息する野鳥

ヒバリ、コマドリ、ノゴマ、ルリビタキ、クロツグミ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ミヤマホオジロ、ユキホホジロ、マヒワ、オオマシコ、ウソ、イカル

● <活動>

野鳥販売実態調査、中間報告 続々報告が寄せられています

(No.633 2000年 7月号 p.36)

5月10日よりはじめた「バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査2000」にご協力ありがとうございます。5月16日現在の中間報告です。開始から1週間で、14都道府県より31件の報告が寄せられ、国内の野鳥販売の実態が明らかになりつつあります。和鳥（国内種）の中で特に多く販売されているのはメジロで、報告のあった販売店の半数以上でメジロが販売されています。次いでホオジロ、オオルリ、ヤマガラ、キビタキ、コマドリと続き、中にはレッドリストに記載されているオオタカやシマアオジが販売されている報告もありました。

また、「冬期になると販売される野鳥の種類が増える」、「一番奥の目立たない場所に置いてある」など、今後、調査を行っていく上で参考となる情報もお寄せいただきました。

調査用紙とともに多くの方から「日ごろ、野外で観察している野鳥がカゴの中にいるのを見るのは、心がしめつけられる思いがする」、「何とかしたい」などの声も一緒に届いています。また「買い物に行くたびに野鳥が売られており、苦々しく思っていた」、「こういった調査はぜひ今後も続けてほしい」とのご意見もありました。

一方で、「傷病鳥保護に熱心なペットショップもあるのに、配慮が不足しているのではないか」、「法的根拠のない輸入証明書の有無を調べるのは問題があるのでは」といったご意見もあり、今後の参考にさせていただく予定です。

お寄せいただいた情報・ご意見は、今後の活動に活かしていきたいと思っております。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。（自然保護センター）

● <活動>

カスミ網密猟に実刑判決 (No.632 2000年 6月号 p.38)

カスミ網密猟をしていた岐阜県の男性に懲役4ヶ月の実刑判決が下りました。

これまでカスミ網密猟には罰金刑が中心で、密猟者には捕まっても罰金を払えばすむとの意識があったと言われていました。そのため今回は岐阜地検が懲役8ヶ月を求刑し、一審では罰金50万円でしたが、名古屋高裁は環境保護の世界的な流れからカスミ網密猟は見逃せないとして実刑判決を出したものです。

岐阜県支部をはじめとして、本会はカスミ網密猟問題に取り組んできました。今回の実刑判決は、司法の間でもカスミ網密猟の問題点が認められた表れであり、私たちの運動の成果です。(自然保護センター)

● <活動>

バードウィーク全国一斉野鳥販売調査 ご協力をお願いします！

(No.631 2000年 5月号 p.41)

根強い国産野鳥の違法飼養問題に加え、近年のペットブームでいろいろな種類の外国産野鳥が輸入されています。・野の鳥は野に・が本会創設の理念ですから、輸入鳥を含め多くの野鳥が売買・飼養されるこのような現状を容認するわけにはいきません。そのため、全国野鳥密猟対策連絡会（通称：密対連）と共同で、「バードウィーク全国一斉野鳥販売調査2000」を実施します。たくさんのご協力をお願いします。

■調査の目的

野鳥輸入の禁止と違法飼養の根絶を目指して、ペットショップなどで販売される野鳥の実態を把握します。

■調査期間

5月10日より31日までです。

■調査対象

* 販売店

ペットショップやスーパー、ディスカウントショップなど野鳥を販売している全ての店を対象とします。

* 鳥の種類

国産種（和鳥）だけではなく、外国産種もすべて対象とします。ただしジュウシマツやカナリアなど人に飼われながら繁殖しているものは除きます。

■調査方法等

本誌に挟み込みの調査用紙をお使いください。記入フォームは、インターネットでも公開しています。用紙の返送期限は6月末です。

■調査にあたっての注意

輸入された野鳥を販売することは、現在の法制度では違法ではありません。そのため、調査の際には、販売店とトラブルにならないよう、十分ご注意ください。

■調査結果の公表

調査結果は、秋頃に『野鳥』誌上やインターネットで概要を報告し、詳細は報告書として発行いたします。また今年の密猟対策シンポジウムでも結果報告を行う予定です。

●問い合わせ、用紙返送、用紙請求など

(財)日本野鳥の会 自然保護センター 野鳥販売調査係

〒151-0061

東京都渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1F

TEL : 03-5358-3518 Fax : 03-5358-3608 <http://www.wbsj.org/hogo.html>

● <活動>

バードウィーク全国一斉野鳥販売調査にご協力を！

(No.630 2000年4月号 p37)

一昨年、全国野鳥密猟対策連絡会（略称：密対連）の呼びかけにより行われたデパートの野鳥販売調査では、全園で115店舗が調査され、一部店舗では国産野鳥の販売を確認することができました。またこの結果から、密対連と本会の連名で百貨店協会へ国産野鳥の販売自粛を求める要望を行うことができました。

しかし一向に飼鳥ブームは衰えを見せないため、今年は本会と密対連の共同事業として、「バードウィーク全国一斉野鳥販売調査」を実施します。昨年より対象を拡大し、ペットショップやホームセンターなど野鳥を販売しているすべての店舗、種類も国産だけではなく、外国産の野鳥も調査対象とします。このように対象を広げる背景は、根強い国産野鳥の密猟や違法飼養問題に加え、近年のペットブームでいろいろな種類の外国産野鳥が輸入されるためです。外国産であっても野鳥であり、「野の鳥は野に」が本会創設の理念ですから、このような現状を容認するわけにはいきません。

この調査には皆さまのご協力が必要です。詳細は本誌次号（5月号）でお知らせしますので、どうぞご協力をお願いします。なお、海外での野鳥取引の実態は、野鳥保護資料集第12集「東南アジア野鳥取引の実態」で取り上げています（頒布価格1,000円送料実費。本誌1月号35ページ参照）。ご希望の方は、ハガキかFAXで「東南アジア野鳥取引の実態」希望と明記の上、お名前、ご住所、お電話番号をお知らせください。インターネットでのお申し込みも可能です。

(自然保護センター)

● <活動>

第7回 密猟問題シンポジウム開催 (No.628 2000年2月号 p.36)

12月6～7日に神戸で第7回野鳥密猟問題シンポジウムが開催され、本会自然保護センターからは小林が参加しました。このシンポジウムは、全国密猟対策連絡会（事務局、京都）が主催しているもので、本会は後援と助成を行っています。また今回は、地元の本会兵庫県支部が主管となって、会場の準備や当日の運営などが行われました。

シンポジウムには全国からのべ約200名の参加があり、環境庁や兵庫県、兵庫県警などからも担当者が出席しました。1日目は、各地の密猟違法飼養事例、行政や警察と連携して違法飼養を摘発した経過などの発表と、行政や警察の担当者も交えた熱心なディスカッションも行われました。2日目には、国産ウグイスと輸入ウグイスの識別点や識別のための計測方法の講座と、鳥獣法の改正を受けた各地での取り組みなどについての議論が行われました。

シンポジウムの最後には、行政や司法当局に対して愛玩飼養制度の全廃や密猟・違法飼養の根絶へ厳しい対処をすることなどの要望と野鳥の密猟がなくなる日まで努力していくことを参加者全員で決議して閉会しました。

この全国野鳥密猟対策連絡会の活動の詳細は、インターネットで紹介されています。アドレスは <http://www008.upp.so-net.ne.jp/mittairen/> ですので、どうぞご覧ください。（自然保護センター）